

| | | | |
|-------|----------------|--------|----------|
| 講義名称 | 日本文化論 | 担当教員名 | 渡邊 淳子 |
| 科目群 | 共通基礎 (B) | | |
| 科目区分等 | 教養科目 (LA) 選択必修 | 単 位 | 2 |
| 対象学年次 | 2年・秋学期 | ナンバリング | CBLA2303 |

| | |
|----------------|---|
| 授業のキーワード | 近代化と現実、新しい女 |
| 授業の概要 | 文豪夏目漱石とその家族や文学作品を通して、明治近代化以降の日本の家族の文化や心理特性について学びます。第1講～第7講まで渡邊担当、第8講～第14講まで成田担当 |
| 期待される学習成果 (目標) | 文学という切り口から、明治近代化以降の日本の家族、夫婦の関わりの変化、女性の地位、今日につながる家族の問題等について把握、考察することが出来ます。 |

| 授業展開 | | |
|------|-----------|---|
| 回 | テーマ | 内 容 |
| 1 | はじめに | 授業内容の説明 明治以前の日本の家庭における女性の地位について見ていきます。 |
| 2 | 明治近代化の影響 | 明治近代化がもたらした様々な社会的影響について概観します。 |
| 3 | 女性の意識の目覚め | 『虞美人草』、『三四郎』を手掛かりに、女性の意識の目覚めを見ていきます。 |
| 4 | 男性の家族観 | 男性が抱く当時の家族観を『三四郎』を手掛かりに見ていきます。 |
| 5 | 女性の意識の向上 | 『行人』を手掛かりに女性の意識の向上がもたらした夫婦の摩擦と“家族”の変化を見て行きます。 |
| 6 | 第5講と同じ | 『行人』を通して旧世界の理念を負って生きてきた近代人故の一つの家庭悲劇を見ていきます。 |
| 7 | 『こころ』の場合 | 『こころ』を通して旧世界の理念を負って生きてきた近代人故の一つの家庭悲劇を見ていきます。 |
| 8 | | |
| 9 | | |
| 10 | | |
| 11 | | |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | | |
| 15 | まとめ | 夏目漱石を通して、個人の葛藤、家族の葛藤、夫婦関係等についてまとめます。 |

| | |
|----------------------|----------------|
| 定期試験 | ペーパーテストを行います。 |
| 評価方法 | 試験80%、授業貢献度20% |
| 使用する教科書 (必ず購入してください) | その都度紹介します。 |
| 参考文献 | その都度紹介します。 |